空間 創造 生活

にし NISHI

～アンラシネを目指します～

第 26 号　2015 年 12 月 20 日発行

今年もお世話になりました❤

うさ男の「釜石リポート」

（姉妹自立支援協議会の動き）

西区地域自立支援協議会・案内人（うさぎ？）にしうさ男が巻頭を飾らせていただきます！！

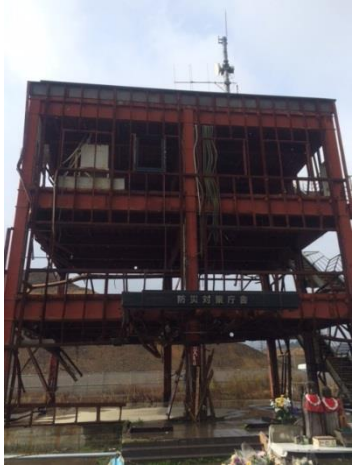
今回は、西区地域自立支援協議会メンバーである横浜中部就労支援センターの鈴木和人さん、生活支援センター西の永瀬誠さんの２人と１匹で岩手県釜石市の釜石・大槌障がい者自立支援協議会との「姉妹自立支援協議会」についての意見交換を行うために、車で１０時間かけて行ってきました。道中、南三陸町・陸前高田市・釜石市唐丹町にも立ち寄り、震災から４年９か月が経ちますが、それぞれの現状を確認してきました。

南三陸町の防災対策庁舎は、残すか解体するかでもめていましたが、最終的には２０３１年まで宮城県が管理（保存）することとなったとのことです。

南三陸町・防災対策庁舎

2014 年 12 年５日

2015 年 12 月４日



陸前高田市

２０１４年１１月１４日

２０１５年１２月４日

南三陸町から沿岸部を北上して岩手県陸前高田市へ。道の駅・高田松原は２０１４年１１月に視察した際とほとんど変わらずの状態でした。「希望のかけ橋」「ベルトコンベヤー」は土砂運搬を終了し、ベルトコンベヤーは平成２７年１０月１日から解体が始まり、平成２８年３月までに撤去される予定。希望のかけ橋の解体は平成２８年４月からスタートし、９月までには撤去される予定だそうです。山を切り崩して運搬した土砂は更地だったところに盛られ、平均７．４m、最大で１２mの盛り土の上に住宅地・商業地を整備します。最後の２枚の写真は、津波到達の高さが示されているものです。１４．５m、１５．１mと海面がこの高さまで上がったこと想像し、改めて津波の恐ろしさを実感しました。

<u>釜石市唐丹町・小白浜防潮堤</u>

柵が引き波によって押し倒されている状況は、今も変わっていません。防潮堤の倒れた部分には新たに工場が建設されています。「まさかこの防潮堤が…。」という思いは、皆さんあったんだろうと想像できます。

各所の視察が終わって、釜石市の相談支援事業所トークに到着。そのあと、場所を生活介護事業所まりんに移して、釜石・大槌障がい者地域自立支援協議会と横浜市西区地域自立支援協議会の意見交換会が始まる。今回のテーマは、ズバリ「姉妹自立支援協議会のあり方について」でした。参加したメンバーは１１名で、うち３名が西区地域自立支援協議会のメンバーでした。まずは各自立支援協議会の課題を上げる。人材不足、各部会の形骸化、メンバーの固定化についてはお互いの自立支援協議会で共通の課題かもしれません。そのまま、今後の姉妹自立支援協議会についての話へ。

① 人材育成・人材交流

○　今年２月に行ったような研修を、今度は横浜市西区が釜石に伺っての研修実施について。
→横浜市単独事業についての話（案）。「すきま」を埋める事業の創出に向けて。釜石・大槌の方で検討することに。

○　当事者同士の交流。今回、生活支援センター西の永瀬氏が同行していたこともあり、永瀬氏より精神障がいのある当事者が自身の体験談を語るような研修は実施できるかもしれないとの話あり。講師としての派遣はありかもしれない。

＊　釜石・大槌の人材不足は深刻。
人口減少、高齢化、復興需要⇒福祉業界からの人離れ⇒障がい者支援サービス資源不足、各事業所サービスのマンネリ化「負」の連鎖が起きている。

② 課題からお互いでできること

協議会運営についての課題については同様の課題を抱えている（各部会の形骸化、運営するメンバーの固定化、次世代の人材育成）
→西区で行っている「西区スタイルカレッジ」、「西区人材育成研修」についての情報提供を行う。

③ 個別事業所同士のつながり

現在、行っている物販について、釜石商品の魅力についての発信。購入者（リピーター）へのアンケート実施。ギフト・お歳暮等、販売方法の拡大についての意見交換。

④ 姉妹自立支援協議会としての人のつながり

（今回の話し合いでは話し合われていないが、西区地域自立支援協議会としては、今回３法人の職員が参加できたように、同行できる人を一人でも多く増やせるよう、姉妹自立支援協議会について発信し続けていく。関係がいかに細く永く続けられるかを、念頭にどのような形で発信していくか、周知の仕方等の工夫する必要がある。）

⑤ 姉妹自立支援協議会の周知

ネット会議（Skype を活用しての会議）を行い、お互いの自立支援協議会メンバーが参加し合うことで、知り合うきっかけを作る。
西区では今回の釜石・大槌訪問の報告会を実施する予定（参加したメンバーの各法人職員、西区地域自立支援協議会メンバー、地域住民等対象）。その際に、Skype を使って釜石の方にも参加していただくところからスタートできるとよいか？との意見あり。
報告会の際に釜石市役所の協力を得て現在の釜石被災地の復興計画の進捗状況の報告もできたらよいのではないか。

１時間３０分、有意義な話し合いができました。距離は約６００㎞ありますが、それを感じさせない、中身の濃～い話でした。話の中では、いつまで「被災地」という言葉を使うのか？という話にもなり、４年９か月もの月日が経ったところで、そろそろ「被災地」という切り口ではなく、「復興」について語っていきたいですね。いつも釜石に伺って自立支援協議会の方たちと話をしていると感じることがあります。西区の人たちと似ているということです。つながりだったり、暖かさだったり…。だからこそ「姉妹自立支援協議会」がスタートでき、細く永くつながっていこうとする力が生まれたんだと思います。きっかけは「被災地」支援だったかもしれませんが、つながるべくしてつながったんです！今回の話し合いもそうですが、お互い対等な立場で、お互いの自立支援協議会をより良くしていくことを一緒に考える場となっていました。

今後は、今回の意見交換で出た意見を一つ一つ具体的にして、実践⇒報告を積み重ねて、西区地域自立支援協議会のメンバーが一人でも多く、姉妹自立支援協議会について興味を持ってもらえるようにしたい。また、西区地域自立支援協議会のメンバーにも、姉妹自立支援協議会でどんなことができるかを考える場を設定し、メンバーひとりひとりが自分のこととして考えられる時間を作ります。第１弾としては、今回の来釜の報告会を２人と１匹で行います（平成２８年２月下旬を予定）。この場ではただ、報告するだけでなく、報告会に来て下さった方々からも今後の姉妹自立支援協議会のヒントをいただきたい。でっかい花火は１年に１回くらい上げられればいいかな？それよりも小さい線香花火を、灯を絶やさずにやり続けていくためのヒントをいただきたいです。

今後も、うさ男の「釜石レポート」は続きます。

いつもこんな感じで
みんな真剣に話合っています。

うさ男

西区民まつりで販売し続けること

「今年は、スタンプラリーはやっていないんですか？」
今年で４０回目を迎える西区民まつりの昼下がり、そんな風に声をかけて下さった方がいらした。理由を伺ってみると、
「昨年、景品で配っていたクッキーがおいしかったので…。」
とのこと。嬉しい気持ちをぐっとおさえ、小走りでクッキー販売元のゆめづくり３番館のブースへ。毎年、ゆめづくり３番館のクッキーは人気があるので、不安を抱えつつも、
「クッキー、まだありますか？」
と息を切らせながら聞いてみるも、クッキーはすでに売り切れ。残念！！せっかく昨年からこの時を待ってきて下さったのに…。そこで、
「すみません。ゆめづくり３番館のクッキーは生活創造空間にしでも購入することができます！相鉄線、西横浜駅から徒歩３分の所にある施設です！」
「分かりました。今度、買いに行ってみます。」
と、ありがたいお言葉をいただく。

これは先日、１１月１日に行われた西区民まつりでの一コマ。
生活創造空間にしとしては、毎年、パン、レトルトカレー、東北物産、作品販売を行っています。ガッツ・びーと西の建設委員会としても参加しており、それを合わせると、今年で８回目となります。

今回の出店では、続けていくことの大切さを
改めて教えていただきました。
１人でも２人でもより多くの方に知ってもらうこと。
生活創造空間にしだけでなく、繋がっている所
全ての事業所についても発信していきます。
西区民まつりだけでなく、これからも色々なところ
に出向いて、知ってもらうことをゆっくりと
続けていきます。

生活創造空間にし　阿部浩之

平成 27 年度　生活創造空間にし研修

障がい当事者の思い・言葉を聞こう3

就労サポートセンター　エヌ・クラップ　市井　美沙

今年度第３回目の生活創造空間にし研修は、いつもの講義の形ではなく、町田にあります『とびたつ会』の方総勢 30 名の方たちが、歌にのせて、それぞれの思いを聞かせてくださいました。どの歌もいい曲ばかりで、ストレートな思いが心に響いて、中には目を潤ませる研修参加者もいるほどでした。

『とびたつ会』のみなさんの気持ちを、歌を、聞いたことで

“もっともっと聞きたい”

“この輪が広がっていきますように”

“世界に響けばいいのに”

と研修参加者のアンケートには、『とびたつ会』の歌が広がる事を切に願う気持ちががたくさん書かれていました。

アンコールを含めた全 15 曲、進行役も当事者の方たちが行ってくださり、会への思いやご自分たちのお仕事等頑張って発表して下さっている姿に元気づけられ、今の自身の立場や状況に置き換え、気持ちが引き締められました。

以下、参加者の感想の中から印象に残ったフレーズをご紹介いたします。

『わたしぬきに決めないで』

わたしのこと　わたしぬきに　きめないで　ほしい

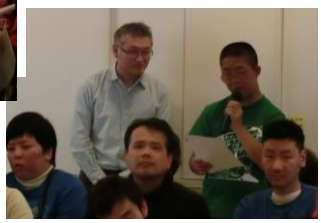
わたしの声　わたしのおもい

つたえたい　あなたに

『輪をひろげよう』

輪をひろげよう　輪をひろげよう

ひるむことなく　といつづけよう



次回は、2016 年 1 月 23 日（土）の 13 時から、少し視点を変えて、ご家族の思いをお話して頂きます。「西区在住の障がい児・者の家族が様々な障がい種別を超え相互の連携・情報交換を行いながら、より良い地域での暮らしを考えて活動している」西区生活支援ネットワークのメンバーから「地域で育ちあう・暮らしあう・行きあう」をベースに熱い思いを語って頂きます。

たくさんの方々の参加を切に願っています。奮ってご参加ください。

西区としての初めての試み！！

今年度西区自立支援協議会では、平成 25 年より実施している「西区スタイルカレッジ」の第 1 回卒業生より、フォローアップ研修を行う中で、「他の事業所を見てみたい・経験してみた」「理解を深めたい」「もっと交流を深めたい」「そうすることで新たな発見できるのではないか」との意見があがりました。

また、昨年の「つなぐ架け橋　～私たちにできること～」と称して行ったシンポジウム終了後には、民生委員の皆様からも「地域にある事業所の見学をしてみたい」とのご意見を頂きました。

そこで今年度、他区での取り組みをモデルとして、西区でも事業所間での理解・交流の場を持つことを目的とし、各事業所職員は見学と実習、民生委員の皆様には見学と限られた内容にはさせていただきましたが、10 月から 12 月の 3 か月の間で「西区人材交流研修」を実施しました。

見学・実習の受け入れが可能とご返答をいただいた事業所が 22 事業所。事業所職員が 25 名。民生委員の方からは 24 名の参加希望をいただきました。

その中で、応募者の希望により実習・見学を受け入れていただいた事業所は 11 事業所。実習・見学を実施した職員は 23 名。民生委員の方は希望に沿って希望事業所に依頼をさせていただきました。

希望日時等での調整がうまくいかず、第 2 希望の事業所の見学・実習を行っていただいた方もいらっしゃいますが、なるべく希望通りに実習・見学を行っていただいています。今回は特に児童系事業所への実習・見学の希望が多く、各事業への関心度を知る機会ともなっています。

見学・実習を行って終了ではなく、「どんな発見があったか」「今後どんなことを活かせるか」など、参加職員はもちろん、民生委員の方にも、報告書と称し、実施後アンケートの記入を実施しています。

皆様からは、対応方法や取組だけではなく、雰囲気づくりなど、自施設での今後の業務に持ちえることができるくらいの収穫があったようです。また、次年度以降もこのような機会があれば参加希望があるかも伺っていますが、ほとんどの方から「参加したい」との回答を頂いています。

同様に受け入れ事業所にも、受け入れてみての「気づき」など（もちろん事務局側の日程調整等の調整力に関するご意見も含め）アンケートを実施しています（、、、、、、すいません。この文章を作成しているときは、「しようとしてます」の間違いでした）。

今回の「人材交流研修」が、参加職員はもちろん、受け入れていただいた事業所にも、一つの刺激となってくれていればいいなーと思っています。

ゆくゆくは個別に依頼ができるくらいに、事業所間の敷居が低くなっていることを望みながら、次年度以降実施していこうと考えています。

くま蔵

エヌ・クラップにマレーシアから研修生が来ています！

１０月より東南アジアのマレーシアから研修に来られているアズルルさんについてご紹介させて頂きます。

アズルルさんは、３６歳の男性で、マレーシアのケダ州というところで、障がい者の方々の就労を支援するお仕事に従事され、今回、神奈川県の企画する海外技術研修員プログラムに応募され８月末に来日されました。全研修期間は３月までの滞在予定です。

エヌ・クラップでは軽作業室２及び３を拠点に、検品の作業等を行う中で、利用者さんとの交流を深められています。ご本人の真面目で気さくな性格からか、利用者さんからは大変親しまれており、アズルルさんの母国語であるマレー語で毎日挨拶をする利用者さんもいらっしゃるくらいです。（ちなみに、おはようございます：スラマッパギ　です）

また、公園清掃や製パンの販売・納品にも同行されたり、ともしびショップを巡回し、休日にはともしびショップに遊びに来て下さり、利用者さんも大喜びでした。また、ガッツ・びーと西が行っている相談事業のオリエンテーションや、横浜のグループホームの見学など日本の障がい者サービスについても積極的に学ばれるなど、様々な研修を体験されております。

アズルルさんによれば、『利用者の皆さんの勤勉な作業ぶりに大変驚かれているとのことです。特に人の話を聞く姿勢や、朝礼時の凛とした姿勢など非常に感心されています。ご本人はそのようなエヌ・クラップの利用者さんを心から尊敬されており、その結果エヌ・クラップでの研修にとても満足されている』とのことです。

アズルルさんの時間の許す限り、他の作業室での
研修も体験して頂きたいと思っています。
アズルルさんが皆さんの作業室にお邪魔されましたら、
是非仲良くして下さい。

県央福祉会　企画総務部　田篭

乗馬サークルの活動について

ガッツ・びーと西の志賀です。
私は、母校である東京農業大学で動物介在療法を学び、特に治療的乗馬という分野を専攻していました。
「治療的乗馬とは？」
⇒馬をパートナーとしながら乗馬を含む多様な活動を通じて、障害のある人々の心や身体の健康を回復させる目的の行為、を表したものです。（日本治療的乗馬協会 http://www.jtranet.jp より）

私は大学で、主に障がい（児）者と馬との関係について研究を行いました。対人関係が苦手な人が、馬の立場になって物事を考えて行動したり、体の筋緊張の強い方が馬の上でリラックスした様子で乗馬する姿を見たりと、馬との関わりを持つことによるあらゆる可能性を目にしてきました。大学卒業後は、自分が見聞きしてきた馬の素晴らしさを、福祉の現場に広げていきたいと考えていました。

３年前に、エヌ・クラップ、ガッツ・びーと西、東京農業大学の協力の元、自らが主宰する「乗馬サークル」というものを立ち上げました。参加者として、エヌ・クラップに通所されている方を募集しました。初めての活動でしたが、６名の方にご参加いただき、年３回の活動を行いました。次年度は、都合がつかず１回の活動しか行う事ができませんでしたが、前年に参加された方も含み８名の方が活動に参加されました。

私のやっている活動は、「治療的」というよりも、むしろ「馬との関わり」を重視した「レクリエーション的」な活動です。活動の内容は、馬のブラッシング、引き馬体験、乗馬体験、ニンジンあげを主な活動とします。初年度は、回数を重ね活動を徐々にレベルアップし、馬上体操を行う等、様々な活動を取り入れました。また、毎回活動後にアンケートを行い、参加者の活動に対する興味関心の推移、活動の様子の変化を記録にとり、より参加者が楽しく、活動しやすい内容を検討致しました。

乗馬サークルは、あくまでも「馬と関わるきっかけ」であり、このサークルをきっかけとして馬に興味を持ち、多くの方に馬と関わる機会を提供したいと思っています。
今後も定期的に乗馬サークルを企画していきたいと思っていますので、ご興味があればご参加ください。

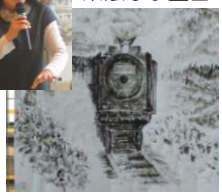
ガッツ・びーと西　志賀　政弥

ステーション邂逅Vol.18開催！

“おもちゃのはこ“ 祝・10周年！
ワンダフル　クリスマスコンサート
イン・エヌ　ガッツ　大盛況！！

上記コンサートが１２月１２日（土）１３：００から
生活創造空間にし１階ロビーにおいて開催されました。
多くの地域の方々でフロアーは一杯となり、外の寒気を
忘れるくらい会場は温かい空気が充満しました。
クリスマスの楽曲がやさしげに流れ、そして語りも入り、
この師走の心もちょっと「ほっ」としたようでした。

素敵な水墨画



“「おもちゃのはこ」は音楽教室講師など音楽指導経験を
重ねてきた仲間が２００５年に横浜市西区で結成したグループです。
ピアノ・歌・ヴァイオリンなど、主にクラッシックを中心とした
コンサートを行っています。私たちは「赤ちゃんから大人まで
誰もが楽しめる音楽を提供すること」をモットーにしています。
小さいお子様連れのお母さんお父さん、シニアのかた、
小中高大学生のみなさん、お気軽にご参加ください。（紹介パンフから）

１０年やってきたのはすごいなと思いながら。　またこれからの１０年「頑張って」やっていってほしいなと。生活創造空間にしは大きなエールを送ります。　（館長　　渡辺幹夫）

腹黒日記～黒々なるままに～
☆プロ野球人気？☆

昨今、日本のプロ野球は一時期のおじさんイメージから脱却し、女性ファンの台頭が目立つようになってきている。広島の女性ファンはカープ女子、オリックスファンはオリ姫と呼ばれ、球場にも多くの方が足を運ばれている。とても素晴らしいことだ。その昔、プロ野球選手といえば、私服姿が恰好悪いだとか、皆こぞってベンツに乗るだとか、金のネックレスをしているなどといったイメージだったが、だいぶ変わってきている。

肝心の我が家でもプロ野球へのイメージが変わってくれるとよいのだが、なかなかそう簡単にはいかないらしい。先日、発表されたユーキャンの今年の新語流行語大賞に【トリプルスリー】が入ったが、「今年一回も使っていない言葉だ。」「何がトリプルなのか？盗塁って何？」「安心してください、じゃないの。」といった具合だ。65 年振りに両リーグで達成と伝えても虚しいだけだ。ネットを見ていると案外この反応は男性女性問わず多い。クライマックスシリーズだとか、日本シリーズだとか、侍ジャパンだとか言ってこちらとしては超特別感を出し、数日間、同じ時間帯、TVの前に釘づけになろうとするものならば家族から総スカンを食らうこととなる。プロ野球界にも五郎丸の様なヒーローがいつか現れ、家族みんなでナイター観戦できる日が来るとよい。　（腹ぐろーる）